

阪南市埋蔵文化財報告 38

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XXI

2006年
阪南市教育委員会

はしがき

阪南市には、現在埋蔵文化財の包蔵地が約60ヶ所あります。本市教育委員会では、この包蔵地内で土木工事などが行われる場合、文化財保護法に基づく届け出を受け、発掘調査などの保護施策を講じています。

本書はこれらの調査のうち、個人住宅建築などの土木工事に伴い、国庫補助事業として実施した発掘調査の報告書です。これらの調査は、いずれも小規模な調査ですが、例年いくつかの成果をあげています。

今年度は、以下に9遺跡で実施した17ヶ所の報告を行います。上述のように、小規模な調査ばかりでしたが、尾崎清水遺跡では古墳時代の竪穴住居が検出されるなどの成果がありました。

末筆になりましたが、関係の土地所有者の方々には、ご協力をたまわりましたことに、感謝申し上げます。

2006年3月

阪南市教育委員会
教育長 川村一郎



第1図 阪南市位置図

例　　言

1. 本書は阪南市教育委員会生涯学習推進課が平成17年度国庫補助事業として計画実施した阪南市埋蔵文化財発掘調査概要報告書である。
2. 調査は生涯学習推進課主幹三好義三、田中早苗、上野 仁及び横澤 慶を担当として実施した。
3. 本書内に示した標高はT.P.である。
4. 調査にあたっては土地所有者など、関係者各位の理解と協力を得た。ここに記して感謝の意を表したい。
5. 本書の執筆、編集は上記の調査担当者が行った。また、発掘調査、整理作業には以下の従事者があつた。
6. 本調査における記録は、実測図、写真、カラースライドなどに保存されている。当教育委員会にて保管しているので、広く活用されたい。

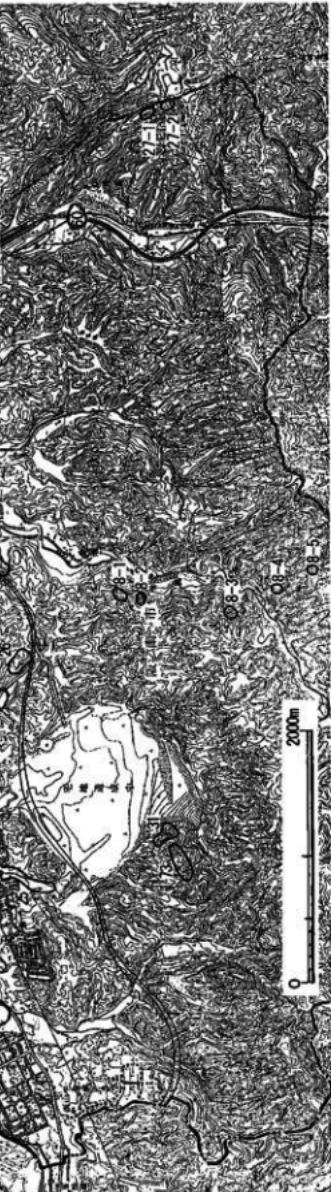
(調査従事者) 根無吉隆、南竹千代、大家 崇、和田旬世、井上祥子、井上 進、島田万帆、松本武志、中寺幸子、広島良子、西山恵子、布施孝子、谷口恒子、吉田芳美、千野 俊

目　　次

第1章 調査の成果

第1節 尾崎清水遺跡	(1) 05-2 区	4
	(2) 05-3 区	
第2節 尾崎海岸遺跡	(1) 05-1 区	7
第3節 烏取北遺跡	(1) 04-1 区	8
第4節 西鳥取遺跡	(1) 04-2 区	9
第5節 神光寺(蓮池)遺跡	(1) 04-12 区	
	(2) 05-6 区	
	(3) 05-7 区	
第6節 向出遺跡	(1) 04-1 区	11
第7節 貝掛遺跡	(1) 05-1 区	12
	(2) 05-2 区	
第9節 箱作今池遺跡	(1) 04-5 区	13
	(2) 04-6 区	
	(3) 05-2 区	
	(4) 05-7 区	
	(5) 05-8 区	
第10節 田山東遺跡	(1) 05-1 区	18
第2章 市内分布調査の成果		20
第3章 まとめ		22

69 須崎
 70 有田
 71 泊
 72 稲作
 73 田川
 74 稲
 75 堀
 59 池上
 60 菊作
 61 植田
 62 高根
 63 村井
 64 尾下
 65 関
 66 竹村
 67 岩見
 68 長水
 69 有手
 70 手澤
 71 寺
 72 泉
 73 沢
 74 仁
 75 滝
 76 沼
 77 池
 78 濱
 79 滝
 80 滝
 81 滝
 82 滝
 83 滝
 84 滝
 85 滝
 86 滝
 87 滝
 88 滝
 89 滝
 90 滝
 91 滝
 92 滝
 93 滝
 94 滝
 95 滝
 96 滝
 97 滝
 98 滝
 99 滝
 100 滝
 101 滝
 102 滝
 103 滝
 104 滝
 105 滝
 106 滝
 107 滝
 108 滝
 109 滝
 110 滝
 111 滝
 112 滝
 113 滝
 114 滝
 115 滝
 116 滝
 117 滝
 118 滝
 119 滝
 120 滝
 121 滝
 122 滝
 123 滝
 124 滝
 125 滝
 126 滝
 127 滝
 128 滝
 129 滝
 130 滝
 131 滝
 132 滝
 133 滝
 134 滝
 135 滝
 136 滝
 137 滝
 138 滝
 139 滝
 140 滝
 141 滝
 142 滝
 143 滝
 144 滝
 145 滝
 146 滝
 147 滝
 148 滝
 149 滝
 150 滝
 151 滝
 152 滝
 153 滝
 154 滝
 155 滝
 156 滝
 157 滝
 158 滝
 159 滝
 160 滝
 161 滝
 162 滝
 163 滝
 164 滝
 165 滝
 166 滝
 167 滝
 168 滝
 169 滝
 170 滝
 171 滝
 172 滝
 173 滝
 174 滝
 175 滝
 176 滝
 177 滝
 178 滝
 179 滝
 180 滝
 181 滝
 182 滝
 183 滝
 184 滝
 185 滝
 186 滝
 187 滝
 188 滝
 189 滝
 190 滝
 191 滝
 192 滝
 193 滝
 194 滝
 195 滝
 196 滝
 197 滝
 198 滝
 199 滝
 200 滝
 201 滝
 202 滝
 203 滝
 204 滝
 205 滝
 206 滝
 207 滝
 208 滝
 209 滝
 210 滝
 211 滝
 212 滝
 213 滝
 214 滝
 215 滝
 216 滝
 217 滝
 218 滝
 219 滝
 220 滝
 221 滝
 222 滝
 223 滝
 224 滝
 225 滝
 226 滝
 227 滝
 228 滝
 229 滝
 230 滝
 231 滝
 232 滝
 233 滝
 234 滝
 235 滝
 236 滝
 237 滝
 238 滝
 239 滝
 240 滝
 241 滝



大坂洞

第2図 版南市埋蔵文化財分布図

第1章 調査の成果

第1節 尾崎清水遺跡

(1) 05-2区 (第3・4図)

調査地は、尾崎清水遺跡の南部に位置する。

調査は調査区内に $2.4m \times 1.4m$ のトレンチを設定し実施した。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層青灰色礫混土の地山である。

遺構は検出されず、遺物は耕作土から陶器、磁器、瓦、土師質管状土錐が出土した。

(2) 05-3区 (第3・5～7図)

調査地は尾崎清水遺跡の南端にあたり、調査面積は $9.8m^2$ である。

調査区の基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層褐色土、第4層明黄灰茶色土の地山である。

遺物は第3層からサヌカイト、須恵器、土師器、瓦器、白土器、土師質土器、磁器、土師質有孔土錐、瓦などが出土した。近世期の包含層である。1は白土器の皿である。

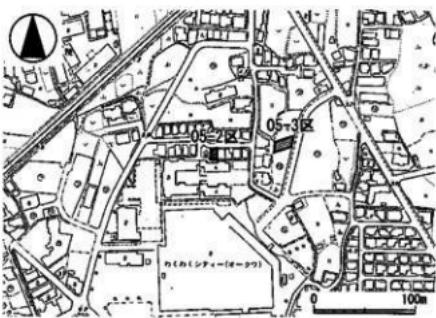
遺構は溝1、竪穴住居1を検出した。

溝は長さ $1.0m$ 以上、幅 $0.8m$ 、深さ $0.16m$ で南北方向のものである。竪穴住居の上面で検出し、埋土は明灰色砂質土である。遺物は縄文土器、須恵器、土師器が出土した。2は縄文時代晚期の深鉢である。検出面の状況から中世期の遺構と思われる。

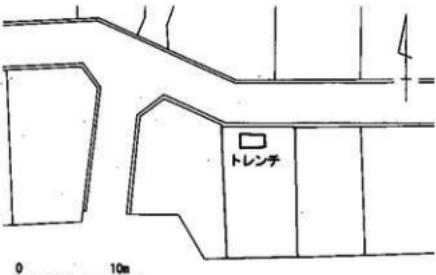
竪穴住居は地山面で検出した。規模は東西 $2.5m$ 以上、南北 $2.5m$ 以上だが、全体の形状などは不明である。埋土は上層がマンガン混じりの暗灰色土、下層が地山土混じりの暗灰色土である。遺物は上層から石器、須恵器、土師器、土師質有孔土錐、下層から縄文土器が出土した。3～10は須恵器で3～8は杯蓋、9・10は杯身である。11～12は土師器壺、13は土師質有孔土錐、14は和泉砂岩の敲石である。上層から出土した。15は縄文土器の深鉢で、下層から出土した。

内部施設として床面でピットを5、壁溝、カマド1を検出した。

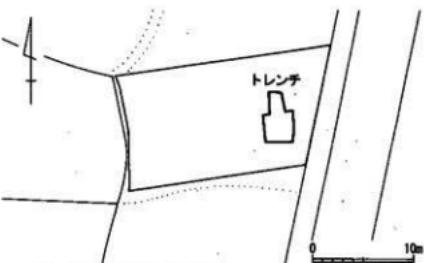
ピット1は直径 $0.35m$ 、深さ $0.18m$ で埋土は地山土混じりの暗灰色土である。遺物は縄



第3図 尾崎清水遺跡調査区位置図



第4図 尾崎清水遺跡05-2区 トレンチ位置図

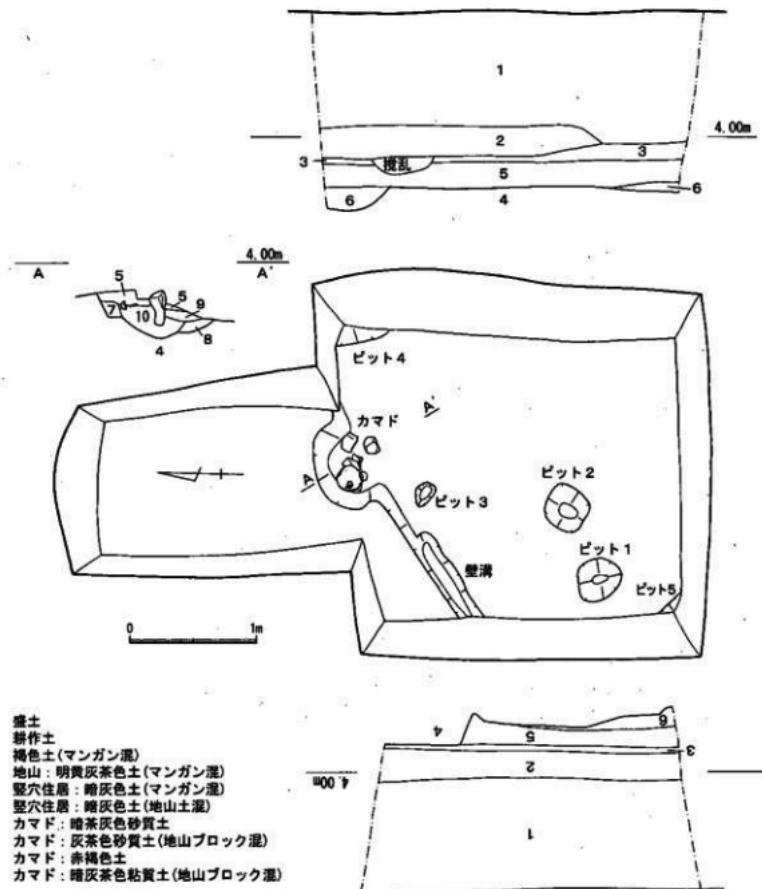


第5図 尾崎清水遺跡05-3区 トレンチ位置図

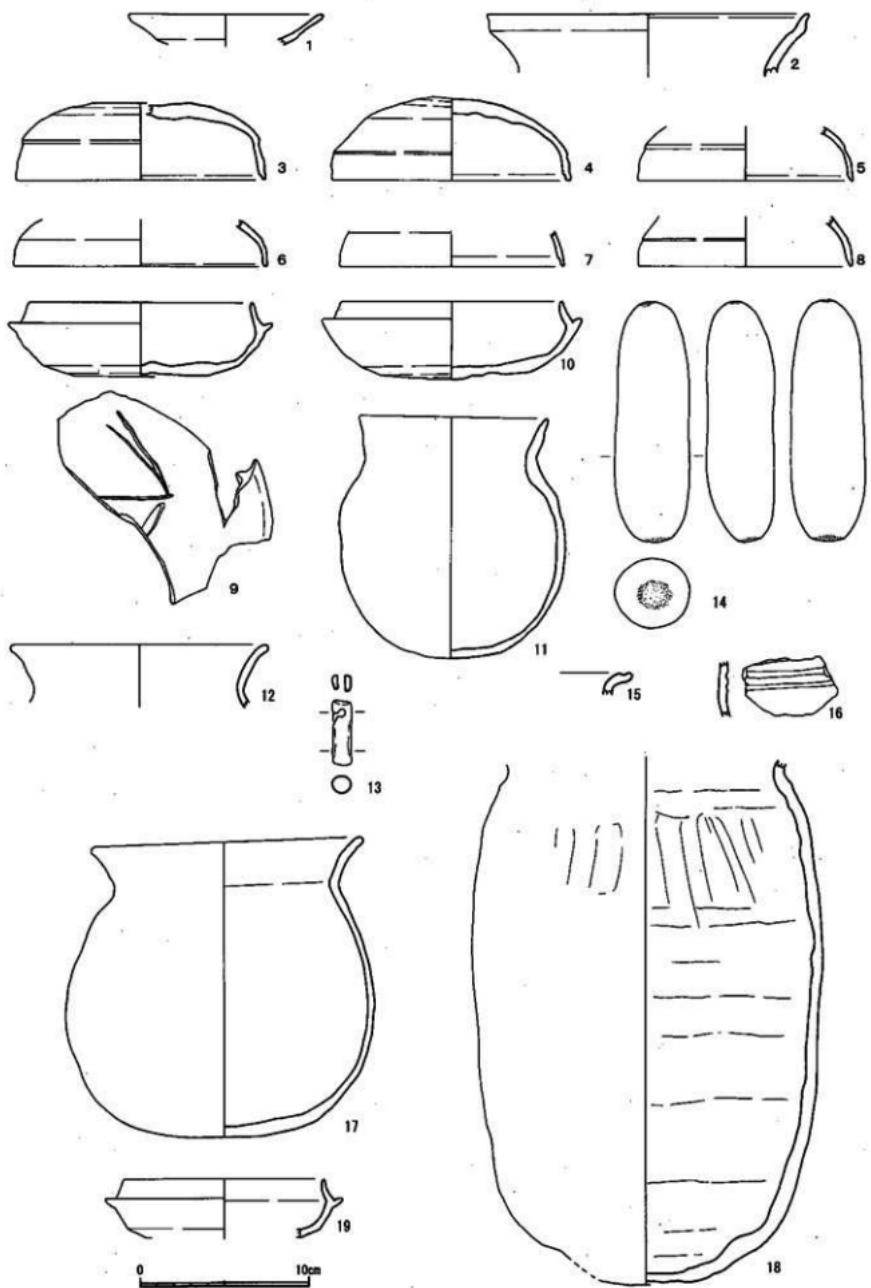
文土器、土師器が出土した。16は縄文土器の深鉢である。ピット2は直径0.39m、深さ0.06mで埋土はピット1と同じである。遺物は須恵器、土師器が出土したが、図化できなかつた。ピット3は直径0.18m、深さ0.05mで、埋土はピット1と同じで、遺物は出土しなかつた。ピット4・5は一部が検出されたのみで、大きさは不明である。埋土はピット1と同じである。遺物は出土しなかつた。

壁溝は堅穴住居の北側で一部を検出したのみである。埋土はマンガン混じりの暗灰色土で、遺物は出土しなかつた。

カマドは堅穴住居の北側で検出した。壁面より約0.3m程外部に張出し、置土などは確認できなかつた。燃焼部は住居床面よりやや高く、中央部には基底部より掘り込んで埋め



第6図 尾崎清水遺跡05-3区 トレンチ平面図・断面図



第7図 尾崎清水遺跡05-3区 出土遺物

た自然石の支脚が1点確認できた。支脚前面の火床面は被熱のため赤褐色に焼け締まり、後部には土器が散乱していた。炭化物層などのカマド使用時の堆積層はみられなかつた。煙道部については上部が大きく削平されているために不明である。

遺物は火床面で土師器が、支脚の埋土から土師器、須恵器が出土した。17・18は土師器の壺で火床面から、19は須恵器の杯身で、暗茶灰色砂質土から出土した。

6世紀前半の遺構である。

第2節 尾崎海岸遺跡

(1) 05-1区 (第8~11図)

調査地は尾崎海岸遺跡のほぼ中央にあたり、既往の調査で弥生時代末期~古墳時代初頭の製塩土器溜りや炉を検出した90-1区の南西に隣接する。調査は調査区内に2.6m×1.3mのトレンチを設定して実施した。調査面積は3.4m²である。

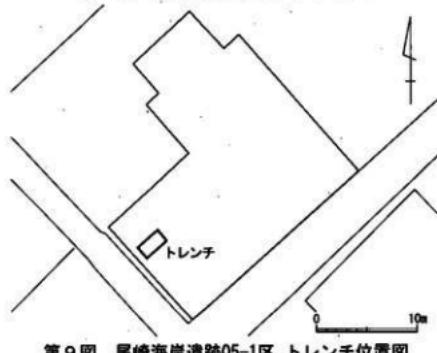
基本層序は第1層盛土、第2層暗黒褐色土、第3層淡灰茶色礫混砂である。地表面より1.5m以上掘削したが、地山は確認できなかつた。

遺物は第2層から土師質土器、陶器、磁器、第3層から弥生土器、製塩土器、土師質土器、陶器、磁器、瓦、鉄釘が出土したが、近代以降のものを含む。

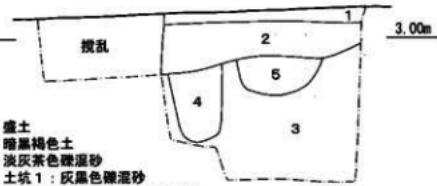
1は染付磁器の輪花皿である。見込みに樹木文を施す。肥前産と思われる。2は染付磁器碗蓋で、口縁部を欠失するが端反している。外面に山水文を描く。肥前産で19世紀代のものである。3は陶器の鉢と思われる。4は陶器の壺ないし壺の底部である。5は真蛸壺の底部である。摩滅が著しいが外面にタタキ、内面見込みに簾状のハケメが認められ、弥生時代後期にあたる。1は第2層、2~5は第3層から出土した。



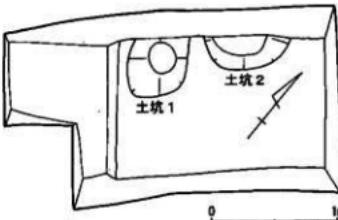
第8図 尾崎海岸遺跡調査区位置図

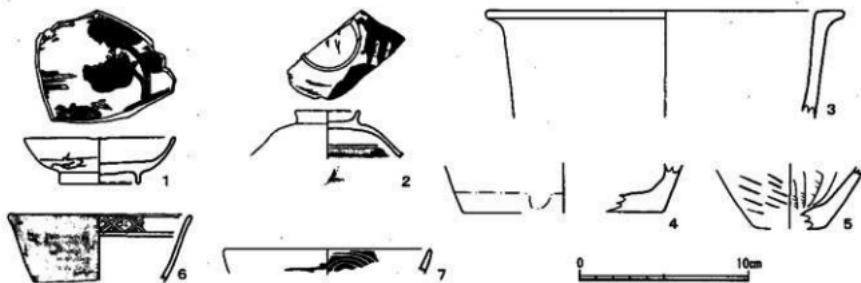


第9図 尾崎海岸遺跡05-1区 トレンチ位置図



第10図 尾崎海岸遺跡05-1区 トレンチ平面図・断面図





第11図 尾崎海岸遺跡05-1区 出土遺物

遺構は第3層上面で土坑を2検出した。

土坑1は長径0.50m以上の楕円形で、深さ約0.55mを測る。埋土は灰黒色礫混砂で、遺物は土師質土器、磁器、瓦、石製品が出土した。6は染付磁器碗である。いわゆる肥前青磁で、内面口縁下に四方擣を描く。18世紀代のものである。

土坑2は直径約0.70m、深さ約0.30mを測る焼土坑である。埋土は焼土や炭を含む暗赤黒色粘質土で、遺物は磁器、瓦が出土した。7は肥前産の染付磁器碗で、近世期のものである。

第3節 鳥取北遺跡

(1) 04-1区 (第12~14図)

調査地は鳥取北遺跡の北東部に位置する。

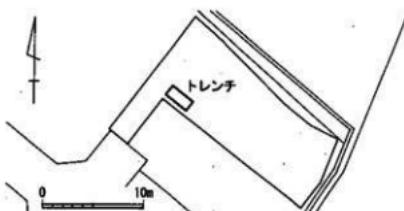
調査は調査区内に2.6m×1.2mのトレンチを設定し実施した。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層青灰色砂質土、第4層黄茶灰色砂質土、第5層淡黄茶色砂質土である。遺構は検出されなかったが、第4・5層の堆積状況などから流路の可能性も考えられる。

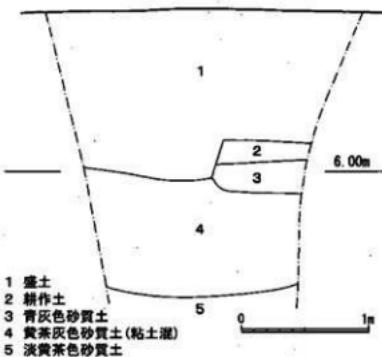
遺物は第4層から土師質土器、瓦器、土師質蛸壺が出土した。



第12図 鳥取北遺跡調査区位置図



第13図 鳥取北遺跡04-1区 トレンチ位置図



第14図 鳥取北遺跡04-1区 トレンチ南側断面図

第4節 西鳥取遺跡

(1) 04-2区 (第15~18図)

調査地は、西鳥取遺跡の北西部に位置する。

調査は調査区内に2.8m×1.5mのトレンチを設定し実施した。

基本層序は第1層盛土、第2層灰色土、第3層濃茶灰色砂混粘質土、第4層淡黄灰色粘質土、第5層明黄茶灰色粘質土、第6層淡灰黄色粘土の地山である。

遺物は、第2層から陶器、土師質土器、第3層から須恵器、土師器、瓦器、土師質土器、瓦質土器、製塙土器、第5層から須恵器、土師質土器、製塙土器が出土した。

1~3は第3層から出土した須恵器で、1・2は杯蓋、3は杯身。4~6は第4層から出土した。4・5は須恵器杯蓋、6は土師器の甕である。

遺構は検出されなかった。

第5節 神光寺(蓮池)遺跡

(1) 04-12区 (第19~22図)

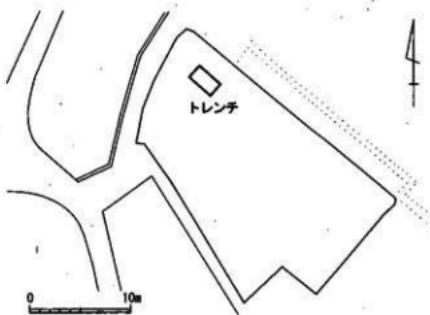
調査地は神光寺(蓮池)遺跡の南部に位置する。

調査は調査区内に3.5m×1.3mのトレンチを設定し実施した。

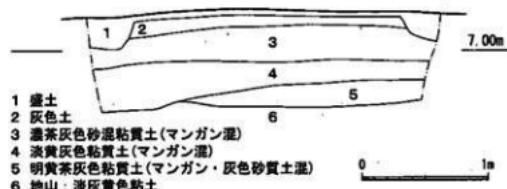
基本層序は盛土、耕作土を除いて、第3層灰褐色土、第4層淡灰黄色土、第5層淡黃灰色土、第6層淡茶灰色土、第7層淡灰白黄色土の地山である。



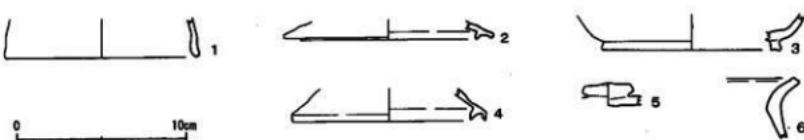
第15図 西鳥取遺跡調査区位置図



第16図 西鳥取遺跡04-2区 トレンチ位置図



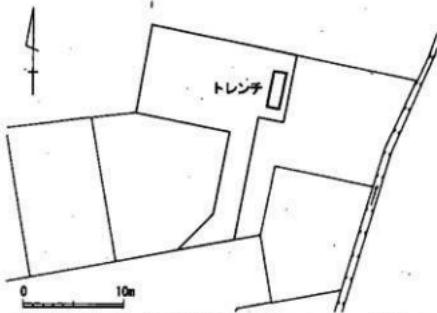
第17図 西鳥取遺跡04-2区 トレンチ東側断面図



第18図 西鳥取遺跡04-2区 出土遺物

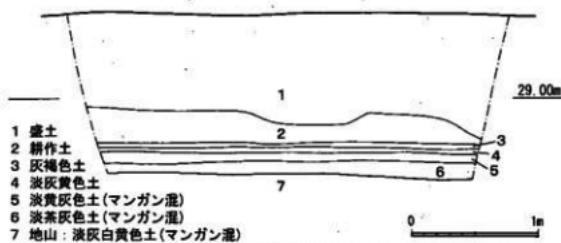


第19図 神光寺(蓮池)遺跡調査区位置図



第20図 神光寺(蓮池)遺跡04-12区 トレンチ位置図

遺物は第3層から土師質土器、青磁、第4層から須恵器、土師質土器、瓦、第5層からサヌカイト、土師質土器、瓦器、第6層から土師質土器、瓦器、白土器が出土した。1は土師質小皿で第3層から、2は瓦器碗で第6層から出土した。
遺構は検出されなかった。



第21図 神光寺(蓮池)遺跡04-12区 トレンチ西側断面図



第22図 神光寺(蓮池)遺跡04-12区 出土遺物

(2) 05-6区 (第19・23~25図)

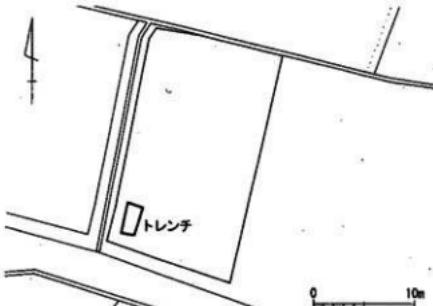
調査地は神光寺(蓮池)遺跡の南部に位置する。

調査は調査区内に2.9m×1.6mのトレンチを設定し実施した。

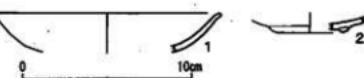
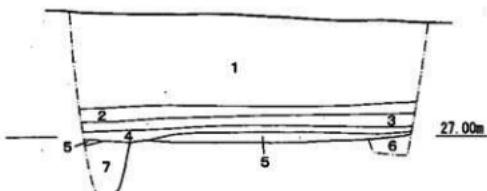
基本層序は第1層盛土、第2層褐茶灰色砂質土、第3層茶灰色土、第4層茶黄灰色土、第5層暗茶灰色土、第6層黄褐色礫混粘質土の地山である。

遺物は第2層から土師質土器、瓦、陶器、磁器、第3層から土師質土器、瓦器、第5層から土師質土器、瓦器が出土した。1は磁器皿で第2層から、2は瓦器碗で第5層から出土した。

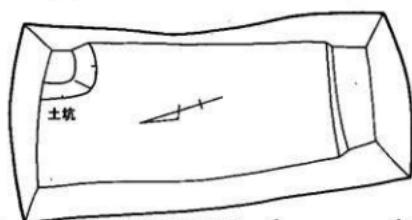
遺構はトレンチ北東角の地山面で土坑1を検出した。直径0.40m以上、深さ0.40m、埋土は濃灰茶色粘質土で、遺物は土師質土器が出土した。



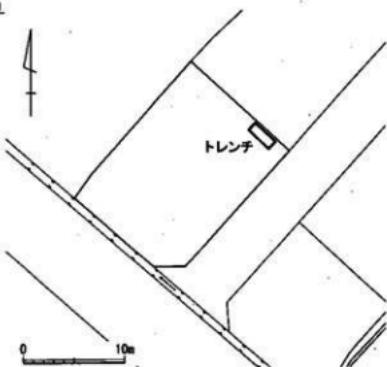
第23図 神光寺(蓮池)遺跡05-6区 トレンチ位置図



第25図 神光寺(蓮池)遺跡05-6区 出土遺物



第24図 神光寺(蓮池)遺跡05-6区 レンチ平面図・断面図



第26図 神光寺(蓮池)遺跡05-7区 レンチ位置図

(3) 05-7区 (第19・26・27図)

調査地は神光寺(蓮池)遺跡の南部に位置する。

調査は調査区内に2.7m×1.2mのトレンチを設定し実施した。

基本層序は盛土、耕作土を除いて、第3層灰茶色砂質土、第4層淡茶黄色土、第5層黄茶灰色礫混粘土の地山である。

遺物は第3層から瓦器、土師質土器、磁器、第4層から土師質土器が出土した。

遺構は検出されなかった。

第6節 向出遺跡

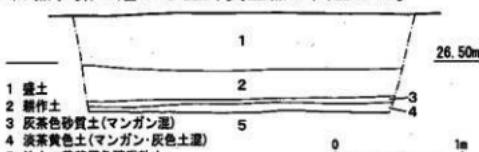
(1) 04-1区 (第28~31図)

調査地は、向出遺跡の北部に位置する。 第27図 神光寺(蓮池)遺跡05-7区 レンチ東側断面図

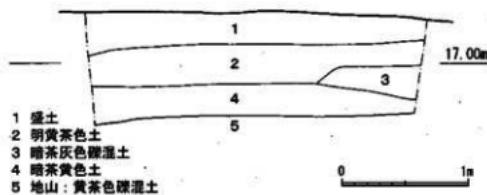
調査は調査区内に2.7m×1.1mのトレ



第28図 向出遺跡調査区位置図



第27図 神光寺(蓮池)遺跡05-7区 レンチ東側断面図



第30図 向出遺跡04-1区 トレンチ南側断面図

第31図 向出遺跡04-1区 出土遺物

ンチを設定し実施した。

基本層序は第1層盛土、第2層明黄茶色土、第3層暗茶灰色礫混土、第4層暗茶黄色土、第5層黄茶色礫混土の地山である。

遺物は第2層から須恵器、瓦器、土師質土器、陶器、磁器、瓦、第3層から須恵器、土師質土器、陶器、瓦が出土した。いずれも近世期の包含層である。第4層からは遺物が出土しなかったため、時代は不明である。1・2は陶器の碗である。1は第2層から、2は第3層から出土した。

遺構は検出されなかった。

第7節 貝掛遺跡

(1) 05-1区 (第32~35図)

調査地は、貝掛遺跡の南部に位置する。

調査は調査区内に2.2m×1.5mのトレンチを設定し実施した。

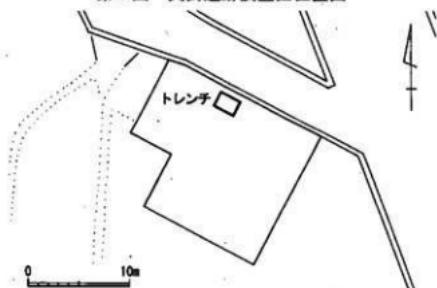
基本層序は第1層耕作土、第2層茶灰色砂質土、第3層淡黄灰色土、第4層橙褐色土、第5層淡黄褐色土の地山である。

遺物は第2層から土師質土器、土師質螭壺、瓦質土器が出土した。1は瓦質土器の擂鉢である。

遺構は検出されなかった。



第32図 貝掛遺跡調査区位置図

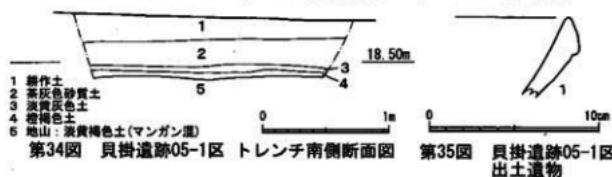


第33図 貝掛遺跡05-1区 トレンチ位置図

(2) 05-2区

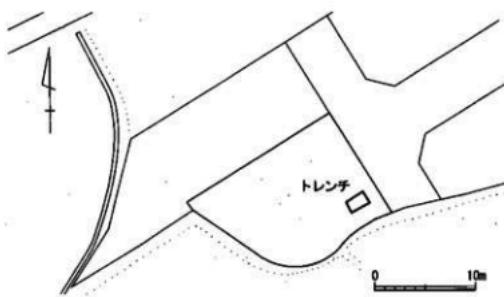
(第32・36~38図)

調査地は貝掛遺跡の北部にあたる。

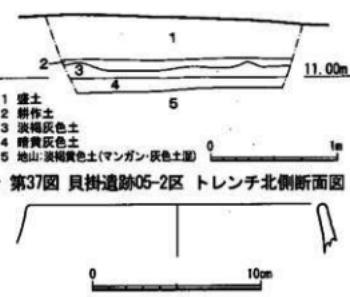


第34図 貝掛遺跡05-1区 トレンチ南側断面図

第35図 貝掛遺跡05-1区 出土遺物



第36図 貝掛遺跡05-2区 トレンチ位置図



第37図 貝掛遺跡05-2区 トレンチ北側断面図

第38図 貝掛遺跡05-2区 出土遺物

調査は調査区内に $2.0\text{m} \times 1.1\text{m}$ のトレンチを設定して実施した。調査面積は 2.2m^2 である。

基本層序は、第1層盛土、第2層耕作土、第3層淡褐灰色土、第4層暗黄灰色土、第5層マンガン粒を含む灰色土混じりの淡褐黄色土の地山である。

遺物は第3層からサヌカイト、須恵器、土師質土器、瓦器、第4層から土師質土器、瓦器、瓦質土器が出土した。1は瓦質土器の羽釜である。口縁部は内傾し、端部は丸くおさめる。第4層から出土した。

遺構は検出されなかつた。



第39図 箱作今池遺跡調査区位置図

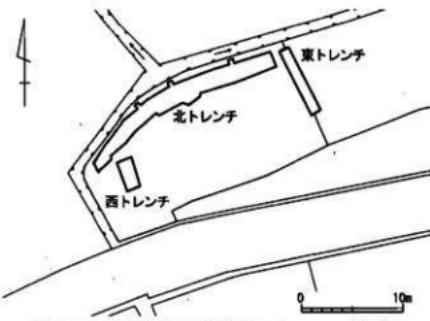
第8節 箱作今池遺跡

(1) 04-5区 (第39~42図)

調査地は、箱作今池遺跡の北部に位置する。

調査は調査区内に東トレンチ $7.0\text{m} \times 1.2\text{m}$ 、北トレンチ $20.0\text{m} \times 1.6\text{m}$ 、西トレンチ $3.0\text{m} \times 1.4\text{m}$ を設定して実施した。

基本層序は第1層盛土、第2層淡灰茶色土、第3層茶灰色土、第4層明茶黄色土、第5層明黄橙色粘土の地山である。



第40図 箱作今池遺跡04-5区 トレンチ位置図

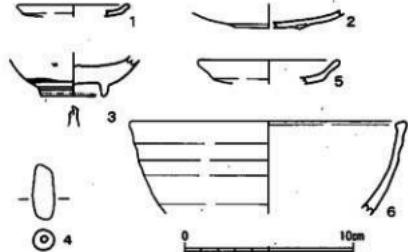
遺物は第2層から土師質土器、白土器、第3層から須恵器、瓦器、土師質土器、瓦質土器、青磁、陶器、磁器、瓦など、第4層からサヌカイト、須恵器、土師器、瓦器、土師質土器などが出土した。1は土師質小皿、2は瓦器碗、3は波佐見焼の碗、4は土師質管状土錐である。1～3は第2層から、4は第4層から出土した。

遺構は北トレントで土坑を1、溝を3、落ち込みを1検出した。

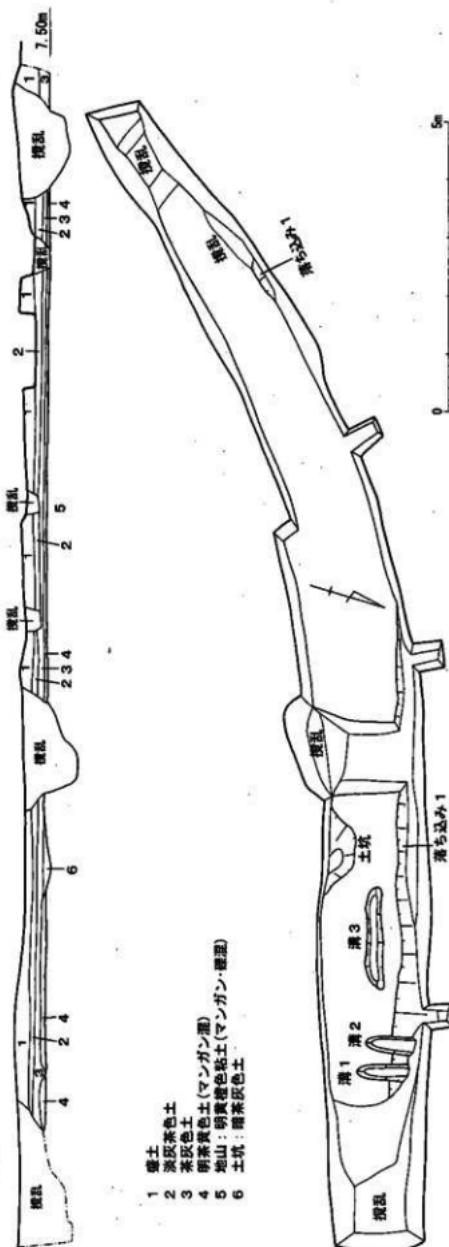
土坑1は第4層上面から切り込んでおり、東西1.54m、南北0.45m以上、深さ0.12mで、埋土は暗茶灰色土である。遺物は土師質土器が出土したが、小片のため図化できなかった。

溝を3検出したが、いずれも鋤溝と思われる。溝1は長さ0.8m以上、幅0.30m、深さ0.04m、溝2は長さ8.5m以上、幅0.30m、深さ0.08m、溝3は長さ17.8m、幅0.32m、深さ0.03mである。落ち込み埋没後に掘削され、埋土は全て土坑と同じ暗茶灰色土である。遺物は溝1から土師質土器、溝2から焼土、溝3から土師質土器が出土した。5は溝1から出土した土師質土器の小皿である。

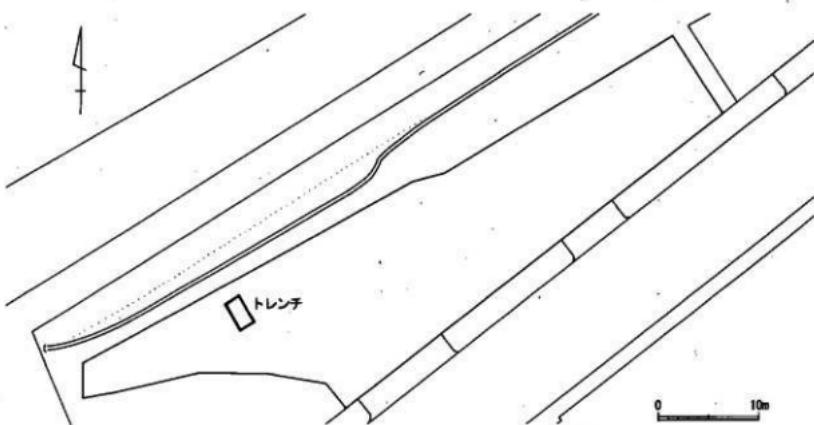
落ち込みは一部を検出したのみあるが、現在の地形にほぼ一致している。埋土は



第42図 箱作今池遺跡04-5区 出土遺物



第41図 箱作今池遺跡04-5区 北トレント平面図・断面図



第43図 箱作今池遺跡04-6区 トレンチ位置図

第3層と同じである。遺物は瓦器、陶器、土師質真蛸壺が出土した。6は陶器の鉢である。

(2) 04-6区 (第39・43・44図)

調査地は、箱作今池遺跡の北部に位置する。

調査は調査区内に3.0m×2.0mのトレンチを設定し実施した。

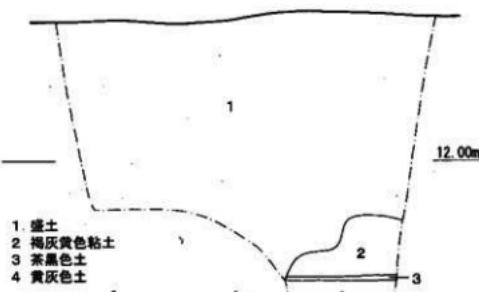
基本層序は第1層盛土、第2層褐灰色粘土、第3層茶黒色土、第4層黄灰色土である。遺物・遺構とも検出されなかった。

(3) 05-2区 (第39・45~47図)

調査地は、箱作今池遺跡の北部に位置する。

調査は調査区内に3.1m×1.7mのトレンチを設定し実施した。

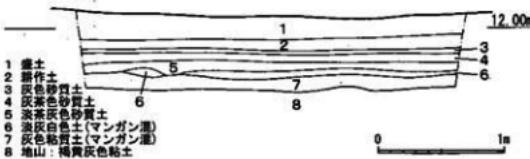
基本層序は盛土、耕作土を除いて第3層灰色砂質土、第4層灰茶色砂質土、第5層淡茶灰色砂質土、第6層淡灰白色土、第



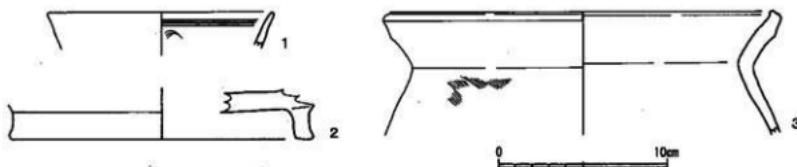
第44図 箱作今池遺跡04-6区 トレンチ東側断面図



第45図 箱作今池遺跡05-2区 トレンチ位置図



第46図 箱作今池遺跡05-2区 トレンチ西側断面図



第47図 箱作今池遺跡05-2区 出土遺物

7層灰色粘質土、第8層褐黃灰色粘土の地山である。

遺物は第4層から瓦器、土師質蛸壺、製塩土器、第5・6層から須恵器、土師器、製塩土器、土師質蛸壺、片岩、第7層から須恵器、土師器、黒色土器、製塩土器が出土した。

1は青磁碗、2は須恵器杯身、3は土師器の壺である。1・2は第5・6層から、3は第7層から出土した。

遺構は検出されなかった。

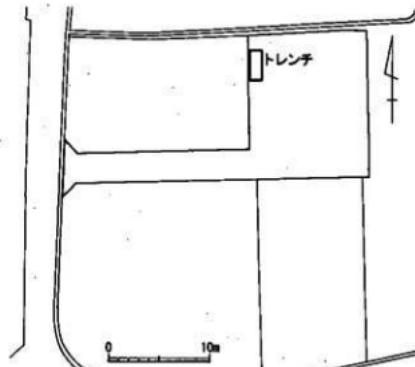
(4) 05-7区 (第39・48~50図)

調査地は箱作今池遺跡の北西部に位置し、04-2区の東隣、04-3区の北隣にあたる。

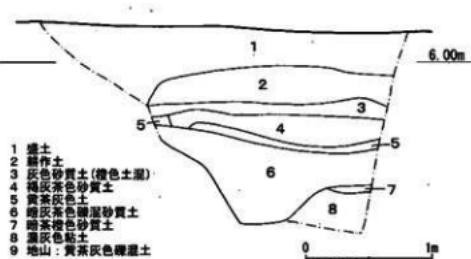
調査は調査区内に2.9m×1.1mのトレンチを設定して実施した。調査面積は3.19m²である。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層橙色土混じりの灰色砂質土、第4層褐灰色砂質土、第5層黄茶灰色土、第6層暗灰茶色礫混砂質土、第7層暗茶橙色砂質土、第8層濃灰色粘土、第9層黄茶灰色礫混土の地山である。

遺物は第3層からサヌカイト、須恵器、土師質土器、磁器、第4層から須恵器、土師質土器、第6層から磁器、土師質蛸壺、スサ入り焼土塊、第7層から土師質土器が出土した。1は須恵器壺身の口縁部である。細片だが、器形から奈良時代のものである。



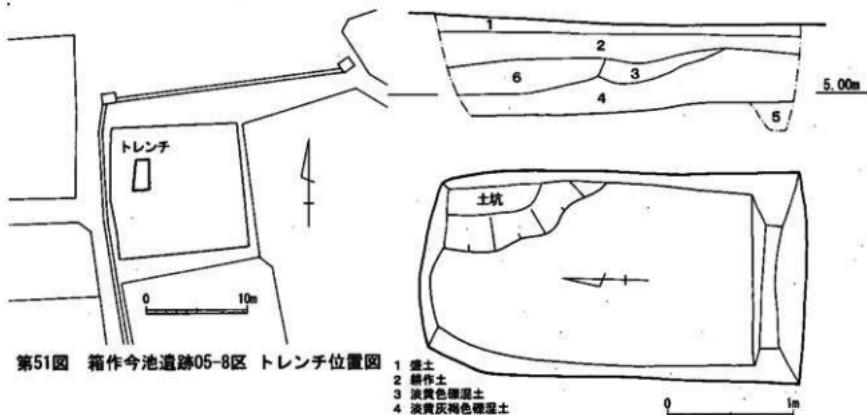
第48図 箱作今池遺跡05-7区 トレンチ位置図



第49図 箱作今池遺跡05-7区 トレンチ西側断面図



第50図 箱作今池遺跡05-7区 出土遺物



第51図 箱作今池遺跡05-8区 トレンチ位置図

- 1 盛土
- 2 耕作土
- 3 淡黄色礫混土
- 4 淡黄灰褐色礫混土
- 5 地山：暗褐色土
- 6 土坑：暗黄灰褐色土

第52図 箱作今池遺跡05-8区 トレンチ平面図・断面図

第4層から出土した。2は土師質の真蛸壺である。3は磁器染付椀で、外面に一重網目文を施す。肥前産である。2・3は第6層より出土した。

明確な遺構は確認できなかったが、トレンチ南側で北側へ落ち込む地山を検出した。第6層より肥前磁器が出土していることから、その埋没時期は近世期以降である。

(5) 05-8区 (第39・51~53図)

調査地は箱作今池遺跡の北西部に位置し、95-6区の北側にあたる。調査は調査区内に2.9m×1.3mのトレンチを設定して実施した。調査面積は3.77m²である。

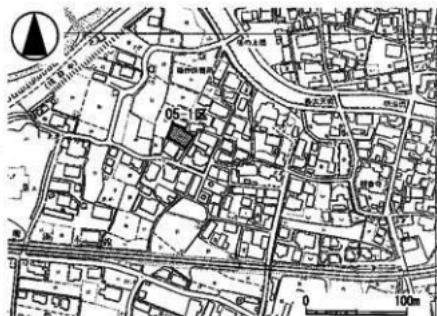
基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層淡黄色礫混土、第4層淡黄灰褐色礫混土、第5層淡黄色土の地山である。

遺物は第4層から土師質土器、瓦質土器、染付磁器が出土した。1は瓦質土器の羽釜である。内傾する口縁部に3段の沈線を施す。外面の鈍より下位には煤が付着する。和泉型D類で、15世紀代の所産である。2は土師質の真蛸壺である。いずれも第4層より出土した。

遺構は第3層上面で土坑を1検出した。平面は不整形で、長さ1.10m以上、深さ約0.30mを測る。埋土は暗黄灰褐色土で、遺物は土師質土器が出土した。近世磁器を含む第4層を掘り込むことから、近世期以降の遺構である。



第53図 箱作今池遺跡05-8区 出土遺物



第54図 田山東遺跡調査区位置図



第55図 田山東遺跡05-1区 トレンチ位置図

第10節 田山東遺跡

(1) 05-1区 (第54~57図)

調査地は田山東遺跡の北部にあたり、97-1区の北西、98-1区の東に隣接する。

調査は調査区内に2.3m×1.8mのトレンチを設定して実施した。調査面積は4.14m²である。

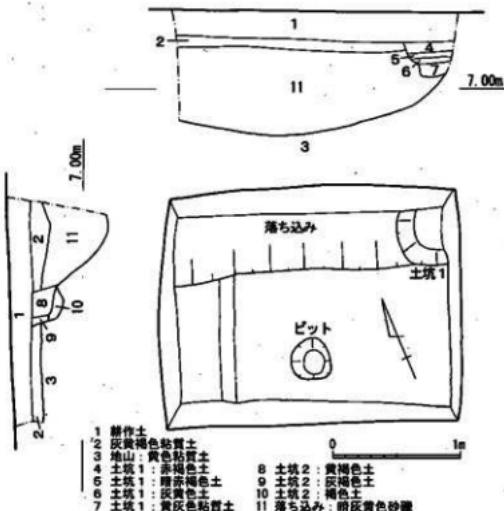
基本層序は第1層耕作土、第2層灰黃褐色粘質土、第3層黄色粘質土の地山である。

遺物は第2層から土師質土器、瓦器、瓦質土器、陶器、瓦、土師質蜻蛉、焼土が出土した。1は瓦器椀、2は土師質の真蜻蛉である。いずれも第2層から出土した。

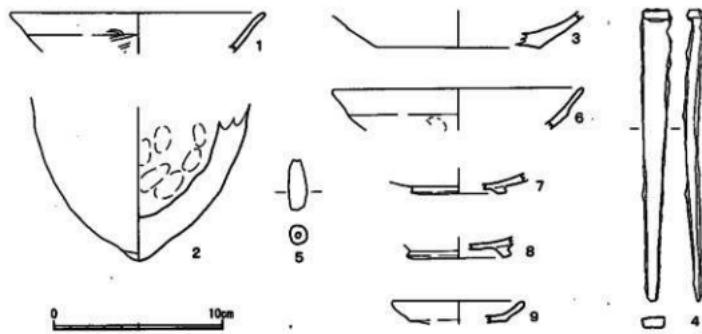
遺構は土坑を2、ピット、落ち込みを検出した。

土坑1はトレンチ北東隅の第2層上面で検出した。直径0.40m以上、深さ0.28mを測る。

埋土は上層から赤褐色土、暗赤褐色土、灰黄色土、黄灰色粘質土で、赤褐色土、暗赤褐色土は焼土や炭を含む焼土層である。遺物は赤褐色土から土師質土器、瓦器、陶器、瓦、鉄製品（鉄釘など）、暗赤褐色土から土師質土器、瓦器、灰黄色土から土師質土器、瓦器、土師質管状土錐が出土した。3は陶器の急須の底部と思われる。内面に薄く施釉し、外面は回転ヘラケズリ。外面には煤が付着する。伊賀信楽系のものと思われる。4は鉄釘である。断面長方形を呈し、頭部は一端を折り曲げて作り出す。5は土師質管状土錐である。3・4は赤褐色土、5は灰黄色土より出土した。



第56図 田山東遺跡05-1区 トレンチ平面図・断面図



第57図 田山東遺跡05-1区 出土遺物

土坑2はトレンチ西壁面で確認した。第2層を掘り込み、規模は不明である。遺物は出土しなかった。

ピットは地山面で検出した。直径0.30mの円形を呈し、深さ0.15mを測る。埋土は黒褐色粘質土で、遺物は土師質土器、瓦器が出土した。6～8は瓦器碗である。

落ち込みはトレンチ北側の地山面で検出した。深さ0.65m以上である。埋土は暗灰黄色砂礫で、遺物は土師質土器、瓦器、陶器、磁器、土錘、鉄製品、ガラス製品が出土した。9は土師質土器の小皿である。

以上の遺構はガラス製品が出土したことから、時代は近代以降である。

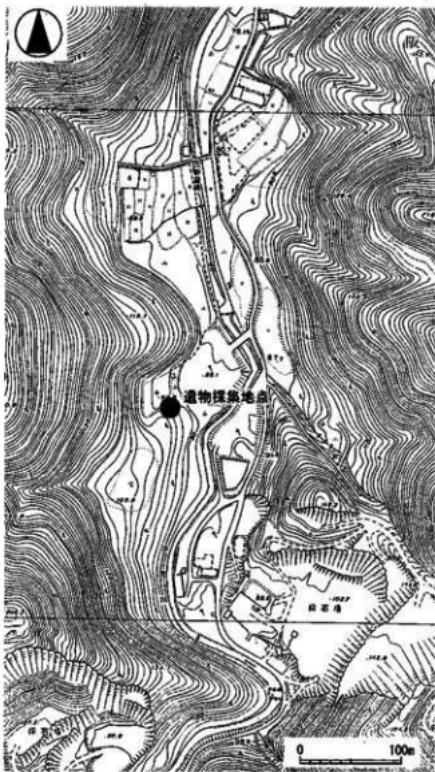
第2章 市内分布調査の成果

阪南市域では、箱作地区、桑畠地区、山中渓地区の山間部に和泉砂岩の石切場跡が確認されている。このうち、箱作地区は茶屋川水系の茶屋川及び飯ノ峯川、桑畠地区は男里川水系の井関川、山中渓地区は同水系山中川の上流域に所在している。この男里川は、河口付近で阪南市と隣接する泉南市との境界をなしている。上流の水系として阪南市域では、上述の井関川と山中川の他、菟谷川がある。近世期の史料には、現在の菟谷川上流域にあたると思われる地域からも石材の切り出しが行われていたことが窺えるが、これまで、菟谷川流域では、石切場跡の存在は知られていない。

このため、新たな石切場跡の存在を確認すべく、今回この菟谷川流域の山中を中心に、井関川、山中川流域において分布調査を実施した。

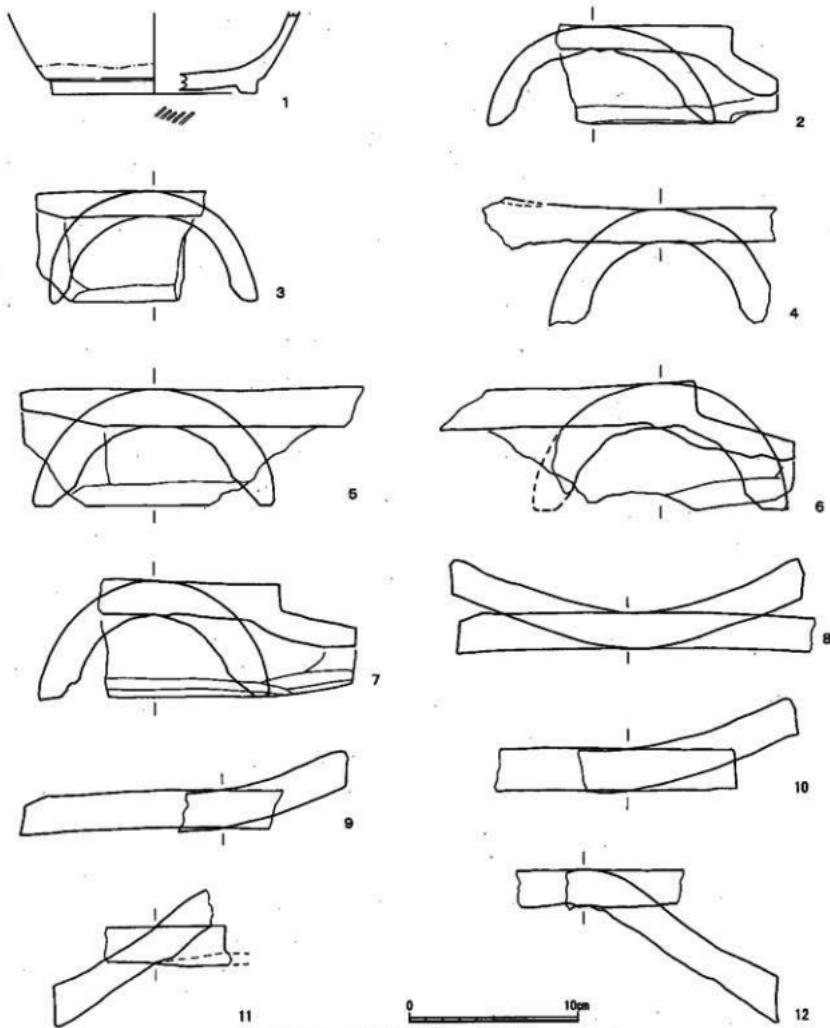
その結果、いずれの地域においても新たな石切場の存在は確認できなかった。しかし、井関川流域にある現在の桑畠の集落をさらに遡った地点で、中世期の瓦が採取された。この付近には、「八王子」という字名があり、以前から式内社の存在が伝承され、近世期の祠などが散在していることは知られていたが、中世期まで遡る遺物が確認されたのは、今回がはじめてのことである。この付近において、中世期の寺院などが存在する可能性を示すこととなった。今後、再度付近の詳細な分布調査を実施する必要があると思われる。

一方、上述のように、石切場については、新たな存在を確認するまでにはいたらなかった。確認できなかった要因は、いずれの流域においても、調査を行った地域が比較的海岸部に近すぎたのではないかと考えられる。今後の課題としては、さらに河川の上流域にまで範囲を拡げて調査を行う必要があると思われる。



第58図 市内分布調査位置図

遺物は陶器、瓦などが採取された。図示できたものは以下のとおりである。1は近世期の陶器の甕もしくは壺と思われる。2～12は瓦である。2・3は近世期の丸瓦で、凸面が縦方向のヘラミガキ、凹面は布目痕が残り、縦方向のヘラケズリがある。4は軒丸瓦で凸面が縦方向のヘラミガキ、凹面は布目痕が残る。瓦当部分は欠損している。5～7は丸瓦で、凸面が縦方向のヘラケズリで僅かに繩目痕が見られ、凹面は布目痕がある。8～10は平瓦で、凸凹面とも離れ砂を施している。11・12は雁振瓦と思われ、凸面は布目痕が残り、凹面は離れ砂が付着する。4～12は中世期のものである。



第59図 市内分布調査 採取遺物

第3章 まとめ

以上のように、本年度は発掘調査として9遺跡17地点での調査報告と分布調査の報告を行った。以下にこの発掘調査についての成果の一部を記して、まとめにかえたい。

発掘調査は調査面積2.0~30.0m²程度のいずれも小規模なものであったが、尾崎清水遺跡05-3区において、わずか約10m²の調査ながら、古墳時代の竪穴住居跡を確認したことは、成果のひとつとしてあげられよう。これまで、この尾崎清水遺跡と隣接の馬川北遺跡では、当該期の土器や構、多くの自然流路等は確認されていたが、住居跡の検出は初めてのことであった。

これらの遺跡はいずれも、男里川河口近くの左岸に位置し、既往の調査では、縦横に流路が検出されており、縄文時代晚期から奈良時代頃までは、低湿地であったと想定されていた。今回の調査により、調査区付近の地盤が6世紀の段階では、一時的にしても、少しは安定していた可能性が示されることになった。当時の状況を一般的に勘案すると、住居の存在は1棟だけとは考えがたく、付近におけるこれ以外の住居跡の存在や集落の存在も想定される。これらについては、今後の調査に委ねることとしたい。

また、馬川北遺跡のすぐ南の馬川遺跡は、男里川左岸の段丘上と段丘下に拡がる遺跡で、段丘下の様相は上記の2遺跡と類似している。この段丘直下の地点において、同じ古墳時代の竪穴式住居跡1棟が2004年度に行なわれた既往の調査で確認されている。この住居跡は、尾崎清水遺跡05-3区から約250m南に位置し、住居跡の年代は今回よりも若干古い6世紀初頭頃のものと思われる。

これら2遺跡で確認された住居跡の時期差のうちに、下流の尾崎清水遺跡付近の土壤がより安定し、これに伴い集落が移動又は拡大してきたとこれだけの調査成果で考えるのは早計であろうか。

報告書抄録

ふりがな	はんなんしまいぞうぶんかざいはくつちょうさがいよう							
書名	阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 XXI							
副書名								
巻次								
シリーズ名	阪南市埋蔵文化財報告							
シリーズ番号	38							
編著者名	三好義三・田中早苗・上野仁・横澤慈							
編集機関	阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課							
所在地	〒599-0292 大阪府阪南市尾崎町35-1 TEL 0724-71-5678							
発行年月日	2006年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °'\"	東經 °'\"	調査期間	調査面積 m ²	調査 原因
		市町村番号	遺跡番号					
おざきしみず 尾崎清水	おざきちょう 尾崎町	27232	68	34° 21' 38"	135° 14' 51"	050627~0628	3.3	住宅
おざきしみず 尾崎清水	しもいで 下出	27232	68	34° 21' 08"	135° 14' 54"	050719~0722	9.8	住宅
おざきかいがん 尾崎海岸	おざきちょう 尾崎町	27232	65	34° 21' 77"	135° 14' 60"	050922~0926	3.4	住宅
とつとりきた 鳥取北	しんまち 新町	27232	54	34° 21' 10"	135° 14' 21"	050113~0114	3.2	住宅
にしどととく 西鳥取	どとく 鳥取	27232	56	34° 20' 50"	135° 13' 53"	050324~0331	4.2	住宅
こんこうじはずい 神光寺(蓮池)	いし 石田	27232	20	34° 20' 35"	135° 14' 57"	050315~0316	4.5	住宅
こんこうじはずい 神光寺(蓮池)	いし 石田	27232	20	34° 20' 37"	135° 14' 54"	050629~0630	4.6	住宅
こんこうじはずい 神光寺(蓮池)	いし 石田	27232	20	34° 20' 31"	135° 14' 52"	050901~0902	3.2	住宅
むかいで 向出	じねんだ 自然田	27232	43	34° 20' 91"	135° 15' 24"	050203~0204	3.0	住宅
かいかけ 貝掛	かいかけ 貝掛	27232	19	34° 20' 27"	135° 13' 27"	050620~0621	3.3	住宅
かいかけ 貝掛	かいかけ 貝掛	27232	19	34° 20' 27"	135° 13' 27"	051005~1006	2.2	住宅
はこつくりいまい 箱作今池	はこつくり 箱作	27232	24	34° 20' 21"	135° 13' 0"	050128~0525	45.0	住宅
はこつくりいまい 箱作今池	はこつくり 箱作	27232	24	34° 20' 11"	135° 12' 44"	050217~0218	6.0	店舗付 住宅
はこつくりいまい 箱作今池	はこつくり 箱作	27232	24	34° 20' 22"	135° 13' 0"	050517~0518	5.3	住宅
はこつくりいまい 箱作今池	はこつくり 箱作	27232	24	34° 20' 29"	135° 12' 35"	051130~1201	3.2	住宅
はこつくりいまい 箱作今池	はこつくり 箱作	27232	24	34° 20' 36"	135° 12' 41"	051214~1215	3.8	住宅
たやまひがし 田山東	はこつくり 作	27232	58	34° 20' 11"	135° 12' 44"	050406~0407	4.1	住宅
くわばたちく 桑畠地区	くわばた 桑畠	27232		34° 19' 14"	135° 14' 22"	040519~050222		分布 調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
おざきしみず 尾崎清水	散布地	縄文時代～近世		陶器・磁器・瓦・土師質管状土錐	
おざきしみず 尾崎清水	散布地 住居跡	縄文時代～近世	竪穴住居跡・壁溝 カマド・溝・ピット	サヌカイト・石器・織文土器 土師器・須恵器・土師質土器 瓦器・白土器・土師質有孔土錐 土師質管状土錐・磁器・瓦	
おざきかわが岸	散布地	弥生時代～近世	土坑	弥生土器・土師質土器・製塙土 器・陶器・磁器・瓦・鉄釘・石 製品	
鳥取北	散布地	中世～近世		土師器・土師質土器・瓦器・土 師質蛸壺	
にしどりとり 西鳥取	散布地	中世～近世		土師器・須恵器・土師質土器 製塙土器・瓦器・瓦質土器・陶器	
じんこうじほすいけ 神光寺(蓮池)	散布地	中世～近世		サヌカイト・土師器・須恵器 土師質土器・瓦器・白土器・青 磁・瓦	
じんこうじほすいけ 神光寺(蓮池)	散布地	中世～近世	土坑	土師器・瓦器・陶器・磁器・瓦	
じんこうじほすいけ 神光寺(蓮池)	散布地	中世		土師質土器・瓦器・磁器	
むかいで 向出	散布地	不明		土師器・須恵器・土師質土器・瓦 器・土師質炮烙・陶器・磁器・瓦	
かいかけ 貝掛け	散布地	中世～近世		土師質土器・瓦質土器・土師質 蛸壺	
かいかけ 貝掛け	散布地	古墳時代～中世		サヌカイト・須恵器・土師質土 器・瓦器・瓦質土器	
はこつくりいまいけ 箱作今池	散布地	中世～近世	溝・土坑・落ち込み	サヌカイト・土師器・須恵器 土師質土器・瓦器・白土器・瓦 質土器・土師質管状土錐・土師 質真蛸壺・青磁・陶器・磁器・瓦	
はこつくりいまいけ 箱作今池	散布地	不明			
はこつくりいまいけ 箱作今池	散布地	中世～近世		土師器・須恵器・製塙土器・瓦 器・黒色土器・土師質蛸壺・青 磁・片岩	
はこつくりいまいけ 箱作今池	散布地	近世		サヌカイト・須恵器・土師質土 器・土師質蛸壺・陶器・磁器 スサ入り焼土塊	
はこつくりいまいけ 箱作今池	散布地	中世～近世	土坑	土師質土器・瓦器・瓦質土器 染付磁器・瓦	
たやまひがし 田山東	散布地	中世～近世	土坑・落ち込み・ ピット	土師器・土師質土器・瓦器・瓦 質土器・土師質管状土錐・土師 質真蛸壺・陶器・磁器・瓦・鐵 製品・ガラス製品・焼土	
くわばたちくく 桑畠地区	寺院跡	中世～近世		陶器・瓦	分布調査



尾崎清水遺跡05-2区 トレンチ全景(東より)



尾崎清水遺跡05-3区 トレンチ全景(南より)



尾崎清水遺跡05-3区 カマド内遺物出土状況(西より)



尾崎清水遺跡05-3区 カマド火床面検出状況(南より)



尾崎清水遺跡05-3区 支脚石掘り方(西より)



尾崎清水遺跡05-3区 カマド完堀状況(南より)



尾崎海岸遺跡05-1区 トレンチ全景(西より)



鳥取北遺跡04-1区 トレンチ全景(西より)



西鳥取遺跡04-2区 トレンチ全景(南より)



神光寺(蓮池)遺跡04-12区 トレンチ全景(南より)



神光寺(蓮池)遺跡05-6区 トレンチ全景(南より)



神光寺(蓮池)遺跡05-7区 トレンチ全景(南より)



向出遺跡04-1区 トレンチ全景(西より)



貝掛遺跡05-1区 トレンチ全景(北より)



貝掛遺跡05-2区 トレンチ全景(東より)



箱作今池遺跡04-5区 東トレンチ全景(北より)



箱作今池遺跡04-5区 北トレンチ全景(東より)



箱作今池遺跡04-5区 西トレンチ全景(南より)



箱作今池遺跡04-6区 トレンチ全景(北より)



箱作今池遺跡05-2区 トレンチ全景(北より)



箱作今池遺跡05-7区 トレンチ全景(北より)



箱作今池遺跡05-8区 トレンチ全景(北より)



田山東遺跡05-1区 トレンチ全景(東より)



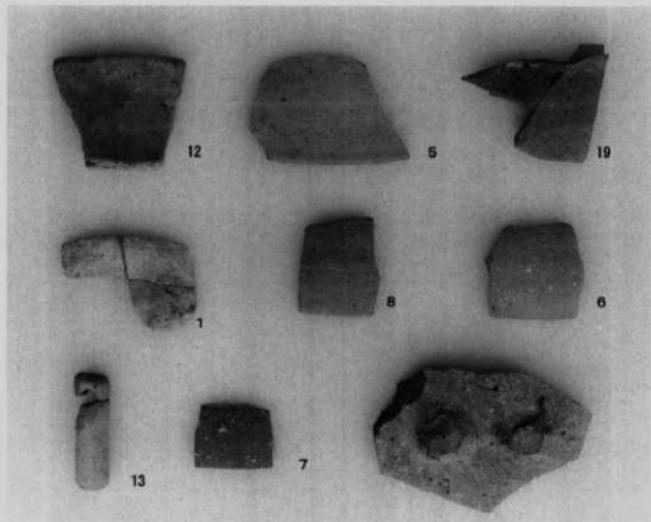
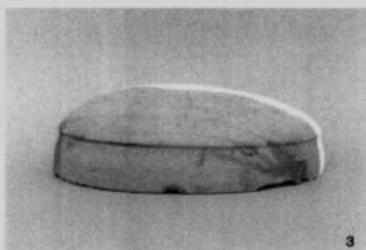
市内分布調査 調査地遠景



市内分布調査 遺物採取地付近



市内分布調査 遺物散布状況



尾崎清水遺跡05-3区 出土遺物



11



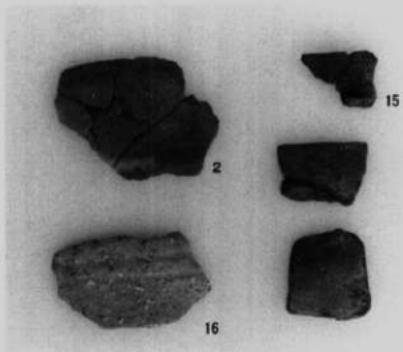
17



14



18

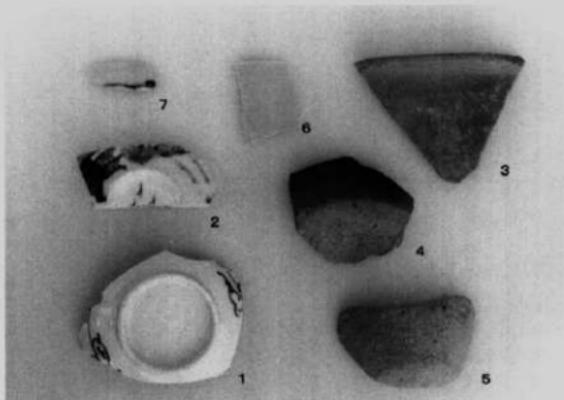


15



16

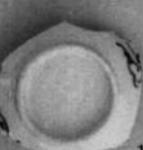
尾崎清水遺跡05-3区 出土遺物



1



2



3

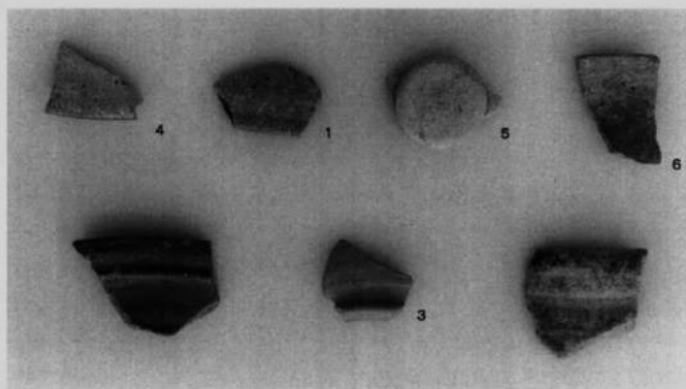


4

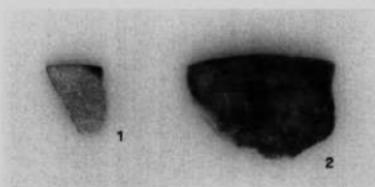


5

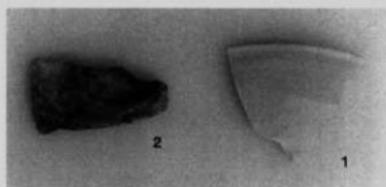
尾崎海岸遺跡05-1区 出土遺物



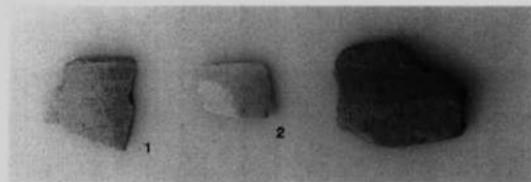
西鳥取遺跡04-2区 出土遺物



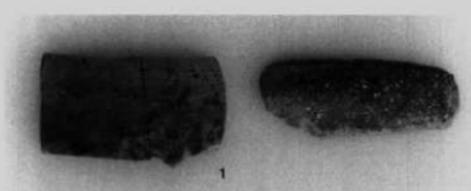
神光寺(蓮池)遺跡04-12区 出土遺物



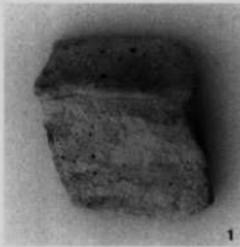
神光寺(蓮池)遺跡05-6区 出土遺物



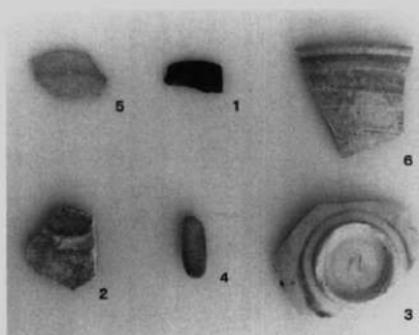
向出遺跡04-1区 出土遺物



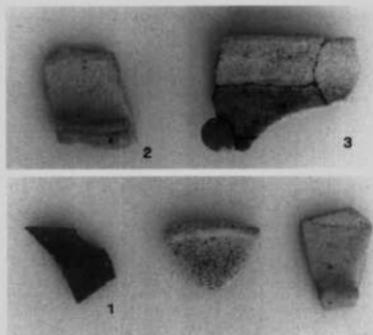
貝掛遺跡05-2区 出土遺物



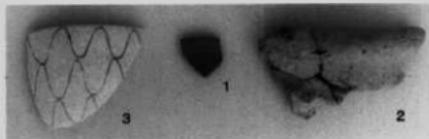
貝掛遺跡05-1区 出土遺物



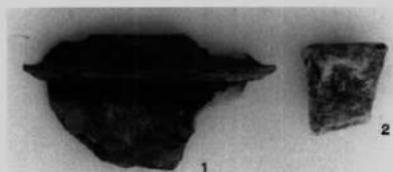
箱作今池遺跡04-5区 出土遺物



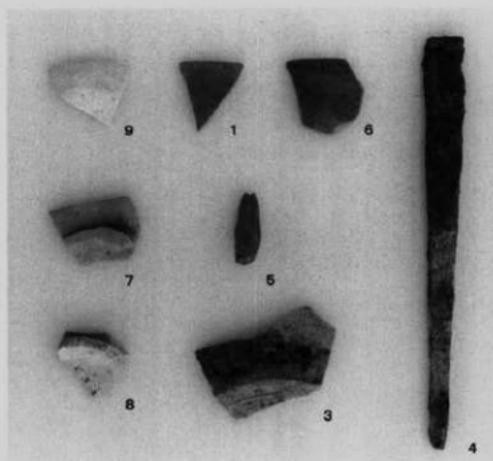
箱作今池遺跡05-2区 出土遺物



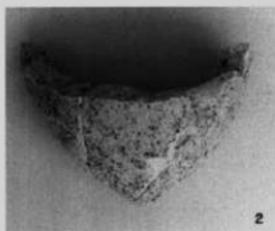
箱作今池遺跡05-7区 出土遺物

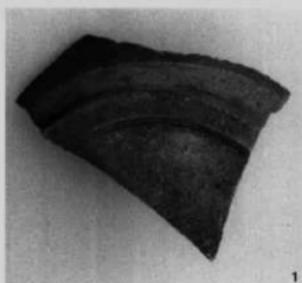


箱作今池遺跡05-8区 出土遺物



田山東遺跡05-1区 出土遺物





1



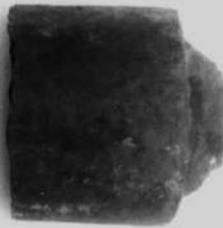
4



4



4



2



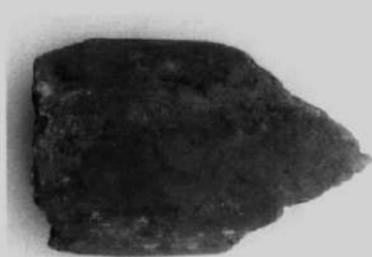
3



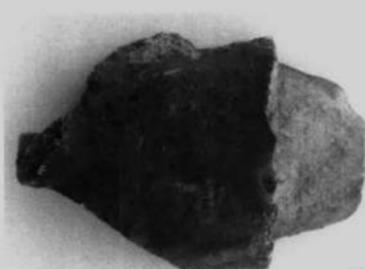
2



3



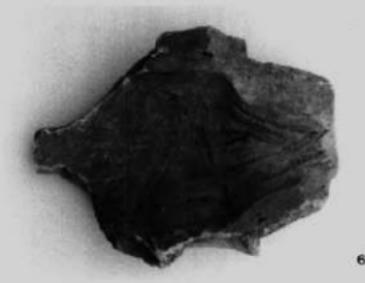
5



6



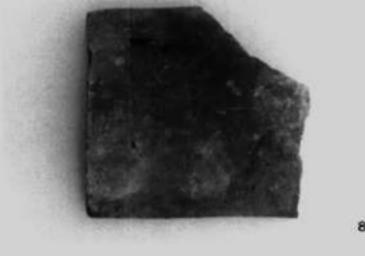
5



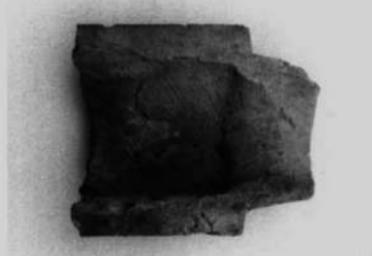
6



7



8



7



8



9



10



9



10



11



12



11



12

阪南市埋蔵文化財報告 38

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XXI

2006年3月

発行：阪南市教育委員会生涯学習部
生涯学習推進課
大阪府阪南市尾崎町35の1
印刷者：三和印刷株式会社